

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成22年3月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4078100114
法人名	有限会社 フリーウィル
事業所名	グループホーム こよみ
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡黒木町本分1405番地 (電話) 0943-42-4516
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年1月26日

## 【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 50,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,100 円			

### (4) 利用者の概要(平成21年12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	0 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 95 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村循環器科・内科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれた静かな山村の一角にグループホームがあり、隣にはホーム長の自宅がある。和風の平屋作りで全室木目の美しさとぬもりが感じられ、暖かい陽が差し込む広く明るいリビングに続くウッドデッキからは、地区の家並みや田畑、山々が一望される。ホーム長、職員は自然環境を活かしたケア、地域の中で一人ひとり尊厳をもったケアの実践に取り組んでいる。ホーム長が最も大切にしていることは、利用者と職員の距離感であり、常に利用者に寄り添って、時間を共有しながら一日一日を過ごせたらと、ホームの名前にもその思いが表れているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では改善課題は挙がらなかったが、評価項目と評価の意義や目的を職員全員で再確認し、評価に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム代表者でもある介護支援専門員が原案を作成し、各項目について全職員から意見を聞き取り自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、利用者、家族代表、役場職員、ホーム長、職員等が参加している。日々の生活や活動内容を報告し、問題点や外部評価について貴重な意見や助言を受けている。会議で討議された内容は全職員でサービスの質の向上に活かせるようにしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>運営推進会議や家族会、訪問時などで家族の意見や苦情などを把握している。ご意見箱を利用する人はいないが、家族とは話しやすい雰囲気づくりに職員は心がけている。出された意見や要望は職員間で話し合っってホームの運営に活かせるように取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域で開催される行事や祭りに職員と共に参加し、地域の方たちとの出会いを大切にしている。ホーム見学者や実習生、ボランティアの方たちとのふれあい、買い物や散歩などでの地域の方たちとのふれあいの機会を大切にしている取り組みを行っている。</p>

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人の尊厳を大切に住み慣れた地域でその人らしく暮らし続ける支援を基本方針として「自由意志・自由選択」と事業所独自の理念をつくりあげている。自然環境の中で利用者と地域住民との交流を大切にケアを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員間で、朝の申し送りや月一回の職員会議などで理念の再確認を行っている。日々の生活のなかで時には理念の意味を活動に実践しているか確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開催される行事やお祭りに参加したり、ホームの見学を自由に受け入れたりして住民と楽しい時間を共有し、交流を深めている。散歩や買い物は地域住民と触れ合う大切な機会となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長・管理者は、職員に自己評価の内容や評価の意義と目的を説明し、全員で取り組めるように努めている。最初にホーム長が原案を作成したのを職員が一つひとつの項目を確認し、意見を出し合って評価している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、利用者、家族代表者、役場職員、民生委員、職員等が参加して実施している。会議では評価への取り組み状況や日々の生活状況、活動の報告を基に意見交換を行って、ホームの活動に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場担当者とは、サービスに関する情報把握やホームの利用状況など情報交換している。役場から見学や実習の依頼がきたりして双方が気軽に相談できるような連携が保たれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会や研修に参加し、職員全員で理解が必要な利用者、家族に説明できるように取り組んでいる。パンフレットを取り寄せて全家族に配布している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回のホーム便りでホームの現状を報告している。家族の訪問時に利用者の心身状態や日々の生活状況、職員の異動、金銭管理、運営推進会議、家族会などの報告をしている。急ぐ場合は電話で報告しあっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や訪問時などで家族の思いや意見を把握している。ご意見箱を利用する人はいないが、直接いろいろな思いを表せるように雰囲気づくりに努めている。出された意見は職員間で話し合って運営に生かせるように取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職場環境を整えながら離職は最小限に抑える努力をしている。変わる場合は基本的に引継ぎを一週間から一ヶ月間の余裕をもって行っている。新人職員が馴染むまで先輩職員が補って利用者への影響を最小限に抑えるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢、資格や経験だけにとらわれずに採用している。職員の献立や料理、ホーム便り、月間行事作成などの得意分野を活かして生き生きと勤務が出来、一人ひとりの自己実現に向けた取り組みがなされている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修での人権学習の伝達研修だけでなく、時には新聞などの切抜きを活用し、人権を尊重する介護の実践に向けての教育に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修には常勤者、非常勤者に関わらずに参加できるようにしている。内部研修では1人ひとりに合わせた研修内容を組み込んでいる。職員の希望するその他の研修などに勤務体制を整えて参加できるようにし、職員の質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム部会の研修(2,3ヶ月に一回実施)に参加し研修だけでなく貴重な情報交換の場としている。参加できない職員には伝達している。他のグループホームからの実習や見学を受け入れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、希望により家族と一緒に遊びに来ていただきホームの生活を体験してもらっている。訪問できない場合は自宅へ出かけて利用者や馴染める時間をつくっている。入居前には家族への説明を詳細に行って、安心してサービスが利用できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の人生経験で培われた豊富な知識や能力が日々職員の貴重な心の支えとなっている。時には、職員の気になる言動を利用者からたしなめられることもある。一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、支え合う関係を大切にしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりと向き合い、思いや意向の把握に努めている。また意思疎通の困難な方には家族からの情報収集や日常生活の中で利用者の表情や心の声の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らせるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・かかりつけ医からの情報等を一つ一つ記録に残し、介護計画作成に反映させている。また職員会議にて、それぞれ意見交換し利用者本位の介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回職員会議を行い、介護計画の見直しを行っている。状態変化が生じた場合はその都度、関係者と話し合い家族にも同意を得て現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の状況に応じて、病院受診の送迎・入院時のお見舞い・洗濯物の持ち帰り・ホームでの家族への食事提供など多機能性を活かした柔軟な支援を提供している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、これまでのかかりつけ医にするか、本人や家族の希望を確認し意向を尊重している。現在、以前からのつきあいのかかりつけ医で対応している利用者もいる。緊急時や事業所の協力医療機関での対応もできるよう支援体制を整えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族・本人の意思を確認し、状況に応じてその都度話し合いをもち、終末ケアについて統一した方針を共有している。終末期ではかかりつけ医から家族へ今後についての話し合いの機会をもっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の生活</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりへの尊厳の気持ちを持ち、声かけにも配慮をしプライバシー保護に努めている。また、記録物もカギがついている棚に保管し、人目の付かないよう個人情報の取り扱いに気をつけている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが利用者の希望に添い一人ひとりのペースを大切にしている。起床時間や食事の時間などその時の希望にそって支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、男性の利用者より食事の合唱を言ってもらい、楽しい雰囲気の中で職員と一緒に食事をしている。利用者は職員に支援されながら、食事の盛り付け、後片づけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日の入浴をしてもらっている。入浴前には体調や気分を配慮している。現在は特に入浴を拒む方はおられない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご飯のしたく、食事の挨拶、月に2回の外出行事、週に2回の買い物など一人ひとりに応じて楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、季節に応じてお花見やドライブ、近辺の散歩やデッキにある花の水やりなど、利用者の希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外来者用の玄関は防犯上にカギをかけているが、日常的に利用者が外へ出入りしている出入口にはカギはかけていない。また利用者の不穏時や夜間には施錠を行っている。日頃からの近隣の方との協力体制、職員の連携にてカギをかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いのもと年2回の避難訓練を行っている。地域の協力を得られるように運営推進会議にて話し合っている。緊急連絡先や避難経路など職員が周知徹底できるように緊急時のマニュアルも作成している。また、停電の際などにも対応できるよう自家発電機を用意している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は毎日記録に残しており、職員一人ひとりが周知徹底できるようにわかりやすい記録をしている。また、嚥下状態やその日の状態に応じて、食事提供方法を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が過ごしているリビングは暖かな日差しが差し込んでおり、木造で作られているため馴染みやすい雰囲気である。段差のない畳コーナーや窓からは季節を感じれる景色を眺めることができる。利用者の作品なども展示されており生活感が感じられる居心地のよい工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が馴染みやすいよう愛着のある以前から使用されていた箆笥やベッド、鏡や仏壇などが持ち込まれ利用者の過ごしやすい落ち着いた部屋になるように環境を整えている。</p>		